

令和6年度

事業報告

学校法人 中井学園

新ひのお台幼稚園

◎2024年度事業計画（「つながる」チーム作り）

評価尺度：「S(達成度 100%以上)」「A(達成度 75~99%)」「B(達成度 50~74%)」「C(達成度 49%以下)」

- ☆ 理念に掲げた「幸せ」という言葉を保育の真ん中に位置付けて、カリキュラム、保育者の意識を変容し、保育内容をアップデートする。

評価：「A」

<input checked="" type="checkbox"/>	トップリーダーのメッセージの中に、理念の内容を組み込んで発信する
<input checked="" type="checkbox"/>	現場の教職員の意識の中に、理念の内容が根付く
<input type="checkbox"/>	保育課程（カリキュラム）によって育つねらいが理念に沿っているものに変える

⇒毎週トップリーダーメッセージを配信しました。強制的に読ませるものでも無いので、読むか

どうかは各自の自由にしていますが、様々な先生との会話の話題として、メッセージのテーマ

が位置付けられる事があるので、それなりに読んでもらっているんだろうなとは思っています。

- ☆ 「主体性つながり論」に基づき、「個人を尊重しつつ個人を超える営み」の実現に向けて、個別最適な学びに繋がる保育を実践する。

評価：「C」

<input checked="" type="checkbox"/>	個別支援の理解や体制を確立する
<input type="checkbox"/>	個別最適な「学び」を意識した支援計画とその実践
<input type="checkbox"/>	子どもが主体的になれるモノ・コト・ヒトについて、それぞれの関係性を意識して保育を組み立てる

⇒スタッフの人数もある程度充足しているので個別支援体制は整ってきましたが、「その子に応じた支援がどのような学びに繋がっているのか」までは意識が及んでいないように思います。「既存のカリキュラムが出来るようになる為」「みんなと同じ事が出来るようになる為」と

いった意識で支援しているように感じます。2025年度は担任・補助・特別支援 Co の連携を

密にし、支援計画の質向上を目指します。

- ☆ 「写真記録」を活用し、保護者向けの個人の成長記録（おたよりぽすと）に個人の写真を入れて、より見やすく伝わりやすい記録物の作成に取り組む。

評価：「S」

<input checked="" type="checkbox"/>	個人の写真を入れた見やすい成長記録を作成する
<input checked="" type="checkbox"/>	クラスの集合写真を入れた思い出に残る成長記録を作成する

⇒現場の先生方からの案を取り入れて実践しています。保護者にも好評です。

最近の源くんのブームはブロックで工事のグッズや武器を作る事。ポンポンジャーのお話もよくしてくれます。しかし、コツコツポンの曲をかけて「歌って！」と言っても照れて歌ってくれません・・・先日は「ここにカード通したらすごい映像みれるんやで！チャリーン！」と何度もやって見せられてその度ワハ！と楽しそうに笑う源くんにはホッくりしました。←

源くんの好きな歌は今でもお泊まり保育で踊ったマイマイム。給食の時はいつも今の季節の歌や鼓隊の歌をかけたりするのですが、源くんは「マイマイムかけてほしい〜」と言っています。ふとマイマイムをかけて「フフフ・・・」と嬉しそうに笑って、その時間は給食を早く食べるのを頑張ってくれたりもするんですよ。また、運動会で歌うともだち賛歌は「おひげをはやしたおじさんも〜」の歌詞が面白くていつも声を出して笑っています。←

最近源くんとお話していると「無限」「億」「万」などの大きな数にとってもハマっている様子。すぐくやとてをを「億はやく！億おいしい！」とよく言っています。「億のあとには兆や億なんぞ」と教えると「えー億の次は無限やで！無限が！善すごいんやで！」と言っていました。源くんとお話していると毎日面白い情報がたくさんです！←

え△△△△←

絵画の活動の際、今までは途中で飽きてしまったり、「もういい〜」とはやく切り上げた様子があった源くん。しかし、1月に描いたスイミーの絵画では、集中して自分からスラスラと描く姿が見られました。「これは描きださるから〜！」と近くのお友だちに説明しながら、源くんの頭の中でイメージしたものをしっかりと自分で考え、楽しんで絵に表すことができる姿に成長を感じました。完成した時に「げんちゃんめっちゃ絵上手になったね！」と声をかけると「やろ？」とフフフと得意げな様子でした。←

合奏ではキーボードを頑張りました。毎日朝の自由遊びの途中で私や補助の先生と一緒に練習し、「ふあっふあーふあふあ、う、ふあ、うふあ、うふあ、うふあふあ」のみんなと違うリズムの所はいつも一緒に口ずさみながら楽しんで練習していました。どんどん弾けるようになってくるとついつい先走ってしまっていたのですが、周りの音を聞いて合わせるように伝え、源くん自身も気づけるようになりました。本番はばっちりでしたね！1ヶ月強のおけいこ、源くんは1度も嫌がらず、いつもやる気に満ち溢れて飛び込んできてくれました！長期間で1つの事を頑張る素敵な経験になったと思います！←

☆ 異年齢・異学級交流によって、子どもや保育者同士の関係性のつながりを意識付ける。

評価：「B」

<input checked="" type="checkbox"/>	異年齢・異学級交流が育てる心の大切さを理解する
<input checked="" type="checkbox"/>	異年齢交流を意識的に設定し、実践する
<input type="checkbox"/>	異学級交流を意識的に設定し、実践する

⇒異年齢・異学級交流の良さは分かっていますが、「自クラスの保育で手一杯」という感じです。新しい取り組みや価値観を定着させる前に、既存の教育課程を見直す必要があります。

☆ ECEQ®を通して培った、「自分達で話し合って解決する文化」を維持し、対話を通して園の環境を改善し続ける。

評価：「B」

<input checked="" type="checkbox"/>	トップリーダーから、話し合いを通じた課題解決を提案する
<input checked="" type="checkbox"/>	ミドルリーダーから、話し合いを通じた課題解決を提案する
<input type="checkbox"/>	一般教職員から、話し合いを通じた課題解決を提案する

⇒教頭、学年リーダーがしっかりと機能してくれた一年だったように思います。年度の後半あたりから、学年リーダー発信の話し合いも増えてきました。さらに浸透していけるよう、風通しの良い組織づくりに努めます。

☆ 園庭の樹木を増やし、動物にも愛着が湧くよう名前（園児から案を募集）を付ける等、園内の「自然環境」を充実させる。また、農園や果樹園での収穫体験をコアカリキュラムと位置付け、CAPD サイクルで常にアップデートしていく。

評価：「B」

<input checked="" type="checkbox"/>	園内の自然環境の充実
-------------------------------------	------------

<input type="checkbox"/>	農園や果樹園での収穫体験をアップデートする
--------------------------	-----------------------

⇒子ども達の動植物への親しみは随分と深まった気がします。新檜尾公園やかぶと公園といった、園庭よりも大きな自然環境でものびのびと遊ぶ姿が見られましたし、季節ごとに公園の自然環境に意欲的に触れに行くクラスも出てきました。農園での活動は今まで通りでした。

☆ 毎朝の論語の素読を実践し、集中力を養い、道徳教育を確立する。

評価「A」

<input checked="" type="checkbox"/>	毎朝論語の素読を実践する
<input checked="" type="checkbox"/>	保育者の話を集中して聞ける姿勢を養う
<input checked="" type="checkbox"/>	思いやりの心を育てる
<input checked="" type="checkbox"/>	論語の内容や教訓を実生活に取り入れる

⇒小学校連携・接続事業に取り組む中で、授業風景を見る機会が多くあり、そこで卒園児が授業や学校生活に意欲的に取り組む姿を見る事が出来ました。

☆ 年長組の偉人伝や、年中組の紙芝居による昔話は、双方向コミュニケーションによる、アクティブラーニングを継続して行う。

評価「A」

<input checked="" type="checkbox"/>	年長児が、より主体的に偉人伝に関われるようアップデートする
<input checked="" type="checkbox"/>	年中児が、より主体的に昔話に関われるようアップデートする
<input checked="" type="checkbox"/>	双方向コミュニケーション型の偉人伝を実践する
<input checked="" type="checkbox"/>	双方向コミュニケーション型の昔話を実践する

⇒昨年度に引き続き、子ども達同士の対話の機会を減らす代わりに、導入に力点を置き、詩や季節の話といった身近な話題で子ども達とのコミュニケーションを活性化させ、本題である偉人のお話の理解度を上げて、対話の質を高めました。

☆ クラス内の対話機会を増やし、子ども達の発想や意見を多く取り入れたクラス運営を行う「対話のプロセス」を見える化し、対話の進め方をある程度平準化する。

評価「A」

<input checked="" type="checkbox"/>	対話の重要性を保育者が認識し、実践する
<input checked="" type="checkbox"/>	日常的に子ども達同士の対話を促し、クラス運営に対する子どもの主体性を育てる
<input checked="" type="checkbox"/>	作品展は、子ども達同士の対話でテーマを設定し、意欲を高めながら進める
<input checked="" type="checkbox"/>	対話のプロセスを見える化し、保育者同士で共有しながら平準化する

⇒発表会の劇題材を決める際に、プランニングシートを活用して各担任、教頭、ヒロの3者で

話し合い、対話や子どもの姿を中心にした行事運営に取り組みました。

☆ キンダーカウンセラーと、担任および補助教員の研修機会を増やし、園全体の特別支援に対する環境を強化する。

評価「B」

<input checked="" type="checkbox"/>	各学年の担任教諭とカウンセラーが情報交換・共有・アドバイスの場を持つ
<input checked="" type="checkbox"/>	各学年のクラス補助の先生とカウンセラーが情報交換・共有・アドバイスの場を持つ

<input type="checkbox"/>	園全体の特別支援に対する研修を行う
<input checked="" type="checkbox"/>	園全体の特別支援に対する環境を強化する

⇒今年度は各学年とカウンセラーという小さな単位で行う事で、現場の情報をもとにした研修

(昼食後のティータイムを活用した連絡会)を行いました。また、11月から石塚教諭を特別支援

コーディネーターとして位置付け、連携強化しています。

◎ 2024年度研修計画（保育研究を楽しむ）

(1) 一人ひとつの年間テーマを持ち、それを研究し、保育者の自信に繋げ、年度末に発表する。

(テーマ例：ある幼児のヒト、コト、モノに対する主体性の変化)

評価「C」

<input type="checkbox"/>	年間テーマを持つ
<input type="checkbox"/>	年間テーマに沿った保育研究を行う
<input type="checkbox"/>	保育研究の発表を行う

⇒管理不足です。ただ、現場の負担量を考えるとこれ以上新しい負荷を掛けるべきではないと判断しました。

(2) 研究保育の実践：教諭1人につき1回以上、自分の保育を園内教職員向けに公開する。

評価「C」

<input type="checkbox"/>	同僚向けの保育公開の準備を行う
<input type="checkbox"/>	同僚向けの保育公開を行う

⇒管理不足です。ただ、現場の負担量を考えるとこれ以上新しい負荷を掛けるべきではないと判断しました。

(3) 昨年度同様、先生自身の成長意欲の評価対象として、園外研修回数に応じて加算評価を行い、学びに対する意識の向上を図る。

評価「A」

<input checked="" type="checkbox"/>	研修回数や時間に対する意識を改善する
<input checked="" type="checkbox"/>	必要に応じて、自らに必要な研修を受講する

⇒認定こども園に移行するにあたり、処遇改善加算2を取得する為の研修要件を提示し、それぞれの立場に必要な研修時間に向けて、主にオンライン研修を受講させました。ベースアップにプラスして処遇改善加算が得られる事で、職員の定着率やキャリアアップに伴う質の向上に向けて取り組んで参ります。

(4) 昨年度同様、定期的な安全教育（防災・防犯訓練）と体験型の遠足を行う。

評価「S」

<input checked="" type="checkbox"/>	体験型の遠足を行う
-------------------------------------	-----------

<input checked="" type="checkbox"/>	新檜尾台小学校・光陽会しんひのお（保育園）と合同で防災訓練を行う
-------------------------------------	----------------------------------

⇒幼小連携・接続事業と、堺市南区の重点事業「緑と防災」の一環として、地域防災訓練に園として参加しました。

(5) 昨年度同様、音楽教育（奥原先生による音楽研修）を定期的に行い、担任教諭の音楽活動に於ける様々な判断基準を養う。

評価：「B」

<input checked="" type="checkbox"/>	定期的に音楽研修を実施する
<input checked="" type="checkbox"/>	担任教諭の音楽活動に於ける判断基準を養う
<input type="checkbox"/>	養われた判断基準をもとに、園児の音楽活動を再構築する
<input type="checkbox"/>	子ども主体・子どもの育ちを真ん中にした音楽活動を展開する

⇒発達年齢ごとの音域等の研修を奥原先生にして頂き、年齢やクラスの特性に於ける課題曲選びに取り組みました。

(6) 新たに絵画・造形研修として、子どもアートスタジオ副代表の辻大地先生をお招きし、子ども達の絵画・造形活動を通じた育ちの見取りや意味を理解し、保育者の指導方法をアップデートする。

評価：「B」

<input checked="" type="checkbox"/>	定期的に絵画・造形研修を実施する
<input checked="" type="checkbox"/>	担任教諭の絵画・造形活動に於ける判断基準を養う
<input type="checkbox"/>	養われた判断基準をもとに、園児の絵画・造形を再構築する
<input type="checkbox"/>	子ども主体・子どもの育ちを真ん中にした絵画・造形活動を展開する

⇒絵画については、「4切の画用紙に描く」という従来のスタイルだけではなく、16切の小さい

画用紙に描くという新しいスタイルを提案していただき、保育者も子ども達も楽しんで取り組むことが出来た。様々な園の実践例も交えて研修していただいております、少しずつ現場の

先生達の価値観が変わりつつあるように感じています。

(7) 昨年度同様、振り返り（自己評価）と、クラス内の関係性が見える化を学期ごとに行う。

評価：「B」

<input checked="" type="checkbox"/>	振り返りを学期ごとに行う
<input checked="" type="checkbox"/>	振り返り内容を次の期の保育に活かす
<input type="checkbox"/>	クラス内の関係性が見える化を学期ごとに行う
<input checked="" type="checkbox"/>	人間関係だけでなく、モノやコトに対する関係性にも着目する

⇒学期ごとに行っていた個人面談を、今年度は行いませんでした。平均キャリアの上昇と学年リーダーを配置しているため、基本的にはそこを通して情報が行き来するスタイルに変えていきました。もちろん、個別の相談や必要に応じた面談は行っています。

(8) 昨年度同様、評価委員に保育を公開し、それをもとにした学校関係者評価委員会を行う。

評価：「A」

<input checked="" type="checkbox"/>	評価委員に保育を公開する
<input checked="" type="checkbox"/>	評価委員からフィードバックをもらう
<input checked="" type="checkbox"/>	もらったフィードバックをもとに保育を再構築する
<input checked="" type="checkbox"/>	学校関係者評価委員会で公開保育の内容をふりかえる

⇒評価委員の方（新檜尾台小学校 古谷校長先生）をお招きし、保育を見学して頂きました。今年度は、登龍館による「言葉と作法」の模擬保育も合わせて行い、教材研究の様子を見学していただき、フィードバックを頂きました。

◎保育時の重点項目

(1) 「子どもの姿」に基づいて、カリキュラム・月案・週案・日案を計画し、柔軟に実施する。

評価：「B」

<input checked="" type="checkbox"/>	「子どもの姿」を捉える
<input checked="" type="checkbox"/>	捉えた「子どもの姿」をもとに、月案会議を行う
<input type="checkbox"/>	捉えた「子どもの姿」をもとに、週・日案を計画する
<input checked="" type="checkbox"/>	決めた計画に固執せず、柔軟に実施する

⇒毎日写真を撮り、それを日誌に掲載し、その日誌を月案会議の初めに前月の振り返りに活用する事が出来ました。各担任がエピソードを語る事で保育を語る習慣を身に付けると共に、意見交換が活性化しました。

また、生活発表会の劇あそびについてはプランニングシートを活用して各担任、教頭、ヒロの

3者で話し合い、対話や子どもの姿を中心にした行事運営に取り組みました。

(2) 個人差を理解した上で保育を組み立てる。（2歳児及び満3才児保育の指導）

評価：「A」

<input checked="" type="checkbox"/>	個人差を理解する仕組みを確立する
<input checked="" type="checkbox"/>	月齢差と個人差の違いに視点を持つ
<input checked="" type="checkbox"/>	「皆でみんなを見る」仕組みを維持・成長させる
<input checked="" type="checkbox"/>	一人ひとりを重視した保育を、保護者に向けて表現する

⇒クラス補助を定期的にシャッフルする事で、個人差を理解する仕組みと、「皆でみんなを見る」仕組みを継続しました。

(3) 食に対する好き嫌いを減らすような工夫や声掛けを行う。

評価：「A」

<input checked="" type="checkbox"/>	年度初めは、少量でも、一口でも良いから食べられるよう促し、出来た時は精一杯褒める
<input checked="" type="checkbox"/>	事前に完食できる量を予測・調整し、完食できる喜びを感じられるようにする

⇒全教職員で上記の価値観は共有出来ています。

(4) 常に園児と健康と安全に留意し、注意深く園児を観察する。

評価：「A」

<input checked="" type="checkbox"/>	保健教諭が中心となって、健康や安全に対する情報発信や仕組み作りを行う
<input checked="" type="checkbox"/>	保健教諭と担任教諭が常に情報交換を行い、元気の無い園児やいつもと様子が違う園児を見逃がさずに、触診・検温する
<input checked="" type="checkbox"/>	戸外遊びでは、三輪車やボール等をエリア分けして、ケガの無いように環境設定する

⇒保健室・保健教諭の主体的な働きかけにより、様子が違う園児に対する速やかな状況判断と

保護者連絡、通院対応が出来ました。

(5) 活動の始まりには立腰の声掛けを行い、挨拶は視線を合わせて行い、元気な返事に対しては必ず承認を行い、年齢に応じた靴揃えを行う。(ルーティンワークを大事に)

評価：「A」

<input checked="" type="checkbox"/>	様々なシーンで「腰骨を立てます」を合言葉にしながら活動を進める
<input checked="" type="checkbox"/>	クラス独自の合言葉など、子どもに合った声掛けを行いながら活動を進める
<input checked="" type="checkbox"/>	子ども達同士で良い刺激をし合うような言葉掛けを行う

⇒活動に意欲的に取り組む手法としては、一定の成果が得られていると感じています。一方で、

保育者の言葉掛けが無くとも子どもが自発的に意欲を高める環境構成については、再考して

いく必要性があると感じています。

(6) 発達年齢に応じた語彙力に着目し、子どもの「つぶやき」を一つでも多く拾う。

<input checked="" type="checkbox"/>	保育日誌に「子どもの気持ちやセリフ」という欄を設け、子ども目線の表現を行う
<input checked="" type="checkbox"/>	自分の気持ちを言葉で言えるよう、問い掛けの言葉を工夫する

⇒当面はこの日誌の形を継続し、子ども理解に繋げていきます。

(7) 家庭と連絡を密接に行い、園児の理解を深め、その情報を保育に活用する。

評価：「A」

<input checked="" type="checkbox"/>	子どもの体調や仕草で気になる事は家庭に聞いて情報収集する
<input checked="" type="checkbox"/>	園でのポジティブな様子を電話やメモで報告する

⇒こまめに家庭と情報共有をする習慣が園には染みついているので、引き続き実践していきます。また、軽微な連絡事項であれば書面で済ますようにもしています。

◎親子教室と2歳児保育の実施

家庭との連携事業として、子どもの健全育成を目的に幼稚園入園前の数年間、親子教室（キャンディ組）2歳児、（とまと組）1歳児、（プチ（プチ）トマト組）0歳児を実施する。教室を通して地域住民との相互交流を図り地域の一体感と連帯意識を深め、家庭機能の維持向上につなげる。

又、2歳児保育の実施により、理念に沿った保育の基礎を作る。

評価：「A」

☒	保護者と教員とのふれあいを重視し、子育ての心配事の話を書いたり、相談に乗る
☒	保護者同士、子ども同士の関わりを持てるような楽しい内容の保育を実践する
☒	自然に親しみ、収穫の喜びを味わってもらう
☒	新ひのお台幼稚園を知って頂く為のプログラムを考え、親子で楽しんでもらう
☒	後期から入園・入会に繋がるプログラムを用意し、入園・入会への不安を減らす

⇒親子教室では、親子のふれあいを楽しめるプログラムを用意すると共に、保護者同士のコミュニケーションの場とし、育児について気軽に話せる場作りを行ってきた。活動内容も、園内での様々な活動、ファミリーファームではぶどう狩り、みかん狩り等自然に親しみ、当園の雰囲気を知って頂く機会も多く用意した。

行事報告

学期	学期目標	月	月の目標	行事
1学期	園での集団生活に慣れ、基本的な生活習慣を身に付ける	4月	遊びを通して園生活の楽しさを感じる	<ul style="list-style-type: none"> ○キックオフ研修 ○入園・進級式 ○記念写真撮影 ○個人懇談（希望者） ○園外保育 ○健康診断（園医） ○身体測定
		5月	自然に親しみ、積極的に戸外遊びを行う	<ul style="list-style-type: none"> ○2・満3歳児保育開始 ○一日動物園 ○尿検査 ○歯科検診（園医） ○保育参観 ○花・野菜づくり ○衣替え ○じゃがいも・玉ねぎ掘り（年中親子）

		6月	雨を活用した遊びを行い、梅雨時期の自然に親しみ、動植物の変化を楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> ○歯の衛生週間 ○2・満3 こっそり参観 ○2・満3 親子運動会 ○音楽研修 ○プール遊び ○教員研修会 ○プラネタリウム鑑賞（年長） ○年中フードコートごっこ ○2・満3 内科検診 ○歯磨き指導 ○年少縁日あそび ○年少運動会
		7月	水遊び等、季節に応じた遊びを行う	<ul style="list-style-type: none"> ○プールあそび ○七夕まつり ○年少児トウモロコシ狩り ○年長お店屋さんごっこ ○個人懇談 ○お泊り保育（年長） ○夏休みホームクラス（希望者）
学期	学期目標	月	月の目標	行事
2学期	活動経験の幅を広げ、一人ひとりの成長を加速させる	8月	夏休みの間の経験を伝え合い、共感する	<ul style="list-style-type: none"> ○夏休み ○赤坂台中学生とのふれあい保育 ○プールあそび
		9月	秋の自然物に触れて、のびのびと表現活動を行う	<ul style="list-style-type: none"> ○敬老の日 ○保育参観（年少～年長） ○小学校交流（しゃぼん玉あそび） ○ぶどう狩り ○音楽研修 ○お月見
		10月	運動会の活動を通して、粘り強い心を身に付ける	<ul style="list-style-type: none"> ○作品展 ○2・満3 こっそり参観 ○消防車来園 ○大根堀り・いも掘り（年少親子） ○大根堀り・いも掘り（年中・長園児） ○大根堀り（2・満3）

		11月	寒さによる免疫低下を防ぐ為、積極的にボールなどの器具を使い、戸外遊びを行う	<ul style="list-style-type: none"> ○防災センター体験 (年長) ○みかん狩り、柿狩り (年長親子) ○交通安全教室 ○年中・年長組運動会 ○食育鮭の解体 (年長)
		12月	歳の移り変わり、時の経過を感じる	<ul style="list-style-type: none"> ○もちつき ○個人懇談 ○音楽研修 ○マラソン大会 (年長) ○白菜狩り (年中・長) ○クリスマス会 ○大掃除 ○冬休みホームクラス (希望者)
学期	学期目標	月	月の目標	行事
3学期	園児一人ひとりの自己肯定感、成長意欲、共生意識の高まりを分かち合う	1月	劇あそび、器楽演奏、唱歌を通じて、学級の一体感を得る	<ul style="list-style-type: none"> ○お正月あそび ○音楽研修 ○やきいも ○節分あそび
		2月	子ども同士の話し合いを通じて日々の遊びや活動を、展開する	<ul style="list-style-type: none"> ○生活発表会 ○2・満3 音楽参観 ○造形研修
		3月	進級卒園の喜びを持ち、成長を感じて自信を持つ	<ul style="list-style-type: none"> ○お別れ遠足 ○ドッジボール大会 (年長) ○ひなまつり ○お別れパーティー (年長) ○保育参観 (年中・少) ○2・満3 いちご狩り ○はっさく・夏みかん狩り (年少～長) ○ありがとうフェスティバル ○卒園式

				○春休みホームクラス (希望者)
--	--	--	--	---------------------